雇い外国人技師である。

木簡の釈文の校注は、岡宏三、船橋明宏、宍戸知の各氏による。

9 関係文献

汐留地区遺跡調査会『汐留』（一九九五年）

同『汐留遺跡』（一九九六年）

東京都埋蔵文化財センター『汐留遺跡―旧汐留貨物駅跡地内遺跡発掘調査概要Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ―』（一九九五・九六・九七年）

同『汐留遺跡Ⅰ―旧汐留貨物駅跡地内の調査―』（一九九七年）

（石崎俊哉）

東京・江戸城外堀跡（えどじょうそとぼりあと）　牛込御門外橋詰（うしごめごもんがいはしづめ）

1 所在地　東京都新宿区神楽河岸

2 調査期間　一九九〇年（平2）一〇月～一二月

3 発掘機関　地下鉄七号線溜池・駒込間遺跡調査会

4 調査担当者　谷川章雄・栩木　真

5 遺跡の種類　近世都市（城郭）

6 遺跡の年代　近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、江戸城外堀牛込御門外の橋詰にあたる。調査は営団地下鉄南北線の建設に伴い実施された。牛込御門およびこれに続く橋は、寛永一三年（一六三六）に江戸幕府が動員した一一三の大名の「御手伝普請」により構築されている。牛込御門は、阿波徳島藩蜂須賀忠英（二五万七〇〇〇石）により構築されており、御門橋も同家の手によると推測される。

（東京西北部・東京東北部）

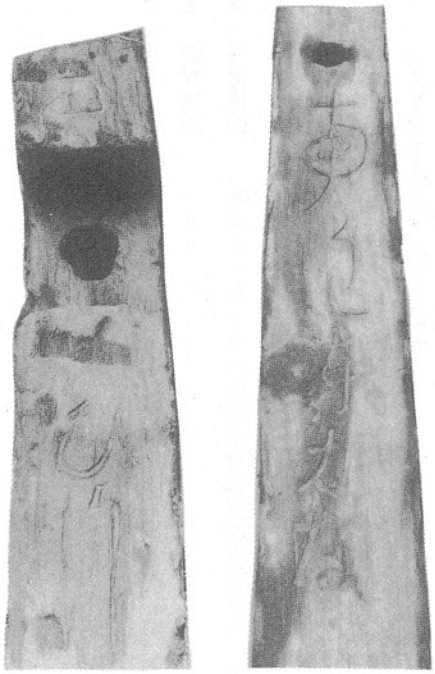
検出遺構は、最大で高さ九・五m、一七段の橋詰石垣で、調査範囲では、三九二個の石垣石を確認している。石垣石は二五〇～五〇〇kg、大部分が安山岩で、真鶴半島近辺から切り出されたと考えられる。

石垣下には二列の胴木が敷設されており、このうちそれぞれの列の西端の胴木に文字が刻まれていた。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「南より東はな」（刻書）　長さ4620×最大径320　061

(2)　「回　ひかし」（刻書）　長さ3570×最大径340　061



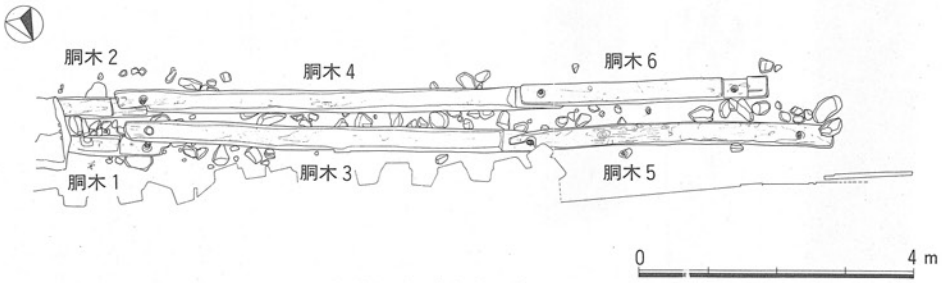
(2)　（部分）　(1)

(1)は下図の胴木五、(2)は胴木六に刻まれたものである。(1)の「東はな」は東端の意味と考えられる。両資料とも方位を示していることから胴木の施工位置を表すと考えられる。但し、二資料とも胴木の構造とは無関係な「コ」字状の切り欠きがあり、転用材を用いたか、あるいは当初の計画とは異なる施工が行なわれた可能性がある。

9　関係文献

地下鉄七号線溜池・駒込間遺跡調査会『江戸城外堀跡牛込御門外橋詰』（一九九四年）

（栩木　真）



図(1)　胴木検出状況